

松前町商工会経済レポート（令和元年度第2四半期）

松前町商工会

本レポートは、愛媛県や中小企業庁が公表する各種経済動向調査の概要を四半期毎に取りまとめ、報告するものです。

1. 最近の県内経済情勢

愛媛県では、各種経済指標や県内産業の動向をとりまとめ、毎月、月末をめどにホームページ上で「最近の県内経済情勢」として公表しています。その中から、愛媛県の経済概況と、町内主要産業別の状況を抜粋して掲載します。

（1）愛媛県の経済概況

一部に弱い動きがみられるものの、緩やか持ち直しが続いている。

前月との比較

○個人消費 前月との比較

一部で振れを伴いつつも、全体としては持ち直しの動きとなっている。

【百貨店・スーパー販売額】 前年同月比5.0%減少、3か月ぶりに前年を下回る。

【専門量販店販売額】 家電大型専門店は5か月ぶり、ドラッグストアは29か月ぶり、ホームセンターは2か月連続で前年を下回る。

【コンビニエンスストア販売額】 9か月ぶりに前年を下回る。

【新車販売台数】 普通乗用車は2か月ぶりに前年を上回り、軽乗用車は5か月ぶりに前年を下回る。

○住宅・公共工事

住宅着工はこのところ持ち直しの動きとなっている。 前月との比較

公共工事は持ち直しの動きとなっている。 前月との比較

【新設住宅着工戸数】 前年同月比7.5%増加、7か月連続で前年を上回る。

【公共工事】 請負金額の年度累計における前年同月比は37.2%増加。

○生産活動 前月との比較

一部で持ち直しの動きもみられるが、全体としては弱い動きとなっている。

【鉱工業生産指数】 前年同月比(原指数)9.2%上昇、2か月連続で前年を上回る。

石油・石炭製品、輸送機械、窯業・土石製品等の業種で前年を上回る。

電気機械、金属製品、化学等の業種で前年を下回る。

○雇用・所得

雇用情勢は着実に改善が進む中、求人が求職を大幅に上回って推移している。 前月との比較

雇用者所得は弱い動きとなっている。 前月との比較

【有効求人倍率】 1.60倍と、71か月連続で1倍を超えた。

【正社員有効求人倍率】 1.19倍と、113か月連続で前年を上回る。

【現金給与総額】 名目では前年比0.8%減、2か月連続で前年を下回る。

実質でも1.1%減、2か月連続で前年を下回る。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（令和元年8月分）」より転載

<http://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/jyousei0109.pdf>（参照 2019-10-10）

(2) 地場産業の状況 (平成31年4月～令和元年6月の状況)

業種	産業事情
自動車関連	自動車関連は、高操業を維持している。
鉄工	中小鉄工は、新居浜地域・西条地域で、全体として需要は減少傾向にあるものの、一定の操業度を維持している。 銑鉄鋳物は、国外での需要が高く、一定の操業度を維持している。 鉄構は、鉄骨需要が堅調に推移しており、一定の操業度を維持している。
陶磁器	陶磁器は、高操業となっており、生産は前年比横ばいとなっている。
珍味品	珍味品は、災害時の保存食として需要が高まっており、生産は前年をやや上回っている。
陸運関係	陸運関係では、地域にばらつきはあるものの、燃料費の高騰などから業況は下向きとなっている。また、一部の事業者では、人手不足により仕事に制限が出ている。

(資料) 愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢 (令和元年8月分)」より抜粋して掲載
<http://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/jyousei0109.pdf> (参照 2019-10-10)

2. 中小企業景況調査報告書

「中小企業景況調査」は、中小企業施策立案の基礎資料を収集するために、(独)中小企業基盤整備機構が四半期毎に実施、中小企業庁と同機構が共同で結果を取りまとめ、公表しています。






(1) 業種別業況判断D I と天気図

「中小企業景況調査」では、業況判断D I 調査が実施されています。
















D I とは、前年同期と比べた今期の状況について、「増加（上昇、好転）」の割合から「減少（低下、悪化）」の割合を差し引いた値で、景況感の相対的な広がりを示すものです。

以下の記号とD I 値の関係に基づいて、直近の調査報告データを視覚化してご紹介します。

<記号とD I 値の関係>

 快晴 ~30.1	 晴 30.0 ~10.1	 薄曇 10.0 ~▲10.0	 曇 ▲10.1 ~▲30.0	 雨 ▲30.1~
---	--	--	---	---

<業種別業況判断D I と天気図（2019年7-9月期）>

製造業	食料品  ▲15.9	繊維工業  ▲21.5	木材・木製品  ▲22.6	家具・装備品  ▲2.7	パルプ・紙・紙加工品  2.8
	印刷  ▲18.7	化学  ▲11.3	窯業・土石製品  ▲23.3	鉄鋼・非鉄金属  ▲22.2	金属製品  ▲11.8
	機械器具  ▲17.3	電気・情報通信機械器具・電子部品  ▲24.3	輸送用機械器具  ▲20.9	その他の製造業  ▲18.8	
非製造業	建設業  ▲0.6	卸売業  ▲17.4	小売業  ▲26.6	宿泊業  ▲22.6	飲食業  ▲19.4
	対個人サービス業（生活関連）※1  ▲16.2	対個人サービス業（自動車整備その他）※2  ▲16.5	対事業所サービス業（運送・倉庫）※3  ▲13.9	対事業所サービス業（専門技術その他）※4  ▲5.6	情報通信・広告業  ▲3.7

※1「対個人サービス業（生活関連）」は、不動産業、洗濯・理容・美容・浴場業、その他の生活関連サービス業等の8業種。

※2「対個人サービス業（自動車整備その他）」は、自動車整備業、機械等修理業。

※3「対事業所サービス業（運送・倉庫）」は、道路旅客運送業、道路貨物運送業、倉庫業等の5業種。

※4「対事業所サービス業（専門技術その他）」は、専門サービス業、技術サービス業、廃棄物処理業等の5業種。

(資料) 中小企業庁「第157回中小企業景況調査（2019年7-9月期）」より松前町商工会作成

(2) 「調査対象企業のコメント」から見る経営上の問題点

- ・ 米中貿易摩擦の影響、中国経済の減速と日韓関係の悪化などにより売上額は半減になった。今後はさらに悪化すると思う。生産活動の見直しが必要になってくる。[鉄鋼・非鉄金属 埼玉]
- ・ 安定している。当初、10月の消費増税に向けて、駆け込み需要を想定していたが、現状感じられない。従業員の確保は依然と厳しく特に20代～30代前半の採用は特に厳しい。採用出来ても定着しない。[家具・装備品 東京]
- ・ 消費税対策でキャッシュレス決済を導入したが、利用者は少ない。10月からの還元事業で消費者の動向が変わるのか注視している。[小売業 岐阜]
- ・ 現在の人数では売上アップは限界。特にこの時期はエアコンクリーニングの依頼が集中し1ヶ月先まで待っていただくか急ぐ方は他の業者を探していただくようになり迷惑をかけた。当方も機会損失となり残念な結果になっている。[対事業所サービス業 愛媛]
- ・ 7月上旬の豪雨の影響で今期・来期は災害復旧工事等の増加により、仕事の発注量が増えるが、熟練技術者・普通作業員の確保ができず、受注することができない。[建設業 鹿児島]

(資料) 中小企業庁「第157回中小企業景況調査(2019年7-9月期)」より抜粋

中小企業景況調査報告書【えひめ版】

愛媛県商工会連合会

全国商工会連合会では、四半期毎に景況調査を実施しており、本報告書は県内商工会地域の景気動向を【えひめ版】として作成したものです。

調査対象期間：2019年度第2四半期（2019年7月～9月期）

調査対象企業：150企業 回答企業：149企業

（製造業：31社 建設業：20社 小売業：39社 サービス業：59社）

DI方式

DIとは、各調査項目について〔増加・上昇・好転〕の割合から〔減少・低下・悪化〕の割合を差し引いた値で〔景気動向指数〕を表しています。

*記号とDI値の関係

 快晴 ～30.1	 晴 30.0 ～10.1	 薄曇 10.0 ～▲10.0	 曇 ▲10.1 ～▲30.0	 雨 ▲30.1～
---	--	--	--	---

1. 業況判断DIと天気図（2年間の推移）

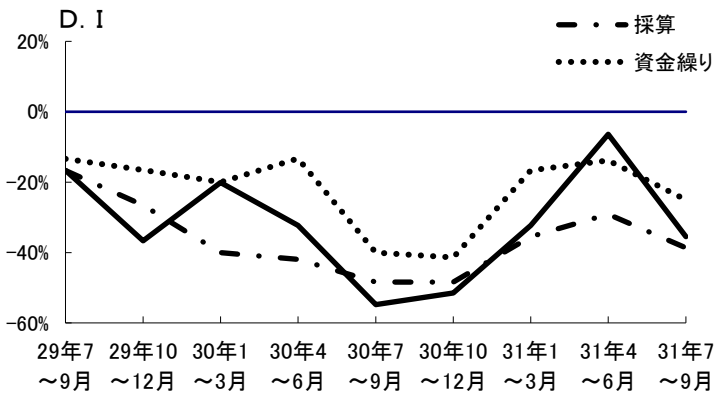
期別	業種別	①製造業		②建設業		③小売業		④サービス業		全体	
		天気図	DI値	天気図	DI値	天気図	DI値	天気図	DI値	天気図	DI値
期別	平成29年 7～9月期		▲ 20.0		▲ 10.0		▲ 36.6		▲ 35.6		▲ 25.6
	平成29年 10～12月期		▲ 20.0		▲ 5.0		▲ 48.9		▲ 32.7		▲ 26.7
	平成30年 1～3月期		▲ 43.3		5.0		▲ 58.5		▲ 45.8		▲ 35.7
	平成30年 4～6月期		▲ 43.3		▲ 15.0		▲ 41.0		▲ 8.4		▲ 26.9
	平成30年 7～9月期		▲ 46.7		5.0		▲ 45.0		▲ 16.9		▲ 25.9
	平成30年 10～12月期		▲ 30.0		15.0		▲ 48.6		▲ 16.9		▲ 20.1
	平成31年 1～3月期		▲ 36.7		20.0		▲ 47.5		▲ 28.8		▲ 23.3
	平成31年 4～6月期		▲ 23.4		30.0		▲ 45.0		▲ 12.1		▲ 12.6
	平成31年 7～9月期		▲ 36.7		20.0		▲ 41.0		▲ 15.2		▲ 18.2
	来期見通し 10～12月期		▲ 33.4		10.0		▲ 53.8		▲ 25.4		▲ 25.7

（注1）業況判断DIポイント値は、前年同期と比較して業況が「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの

（注2）「全体」のポイント値は全業種の単純平均値

2.業種別景気動向

①製造業



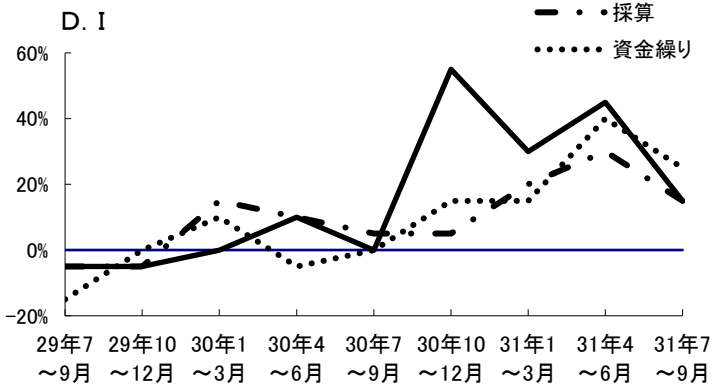
<前期比>

売上額 : 悪化 (▲6.4→▲35.5 ポイント)
 採算 : やや悪化 (▲29.1→▲38.7 ポイント)
 資金繰り : 悪化 (▲13.8→▲25.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 需要の停滞 (24.1%)
 2位 : 製品ニーズの変化 (17.2%)

②建設業



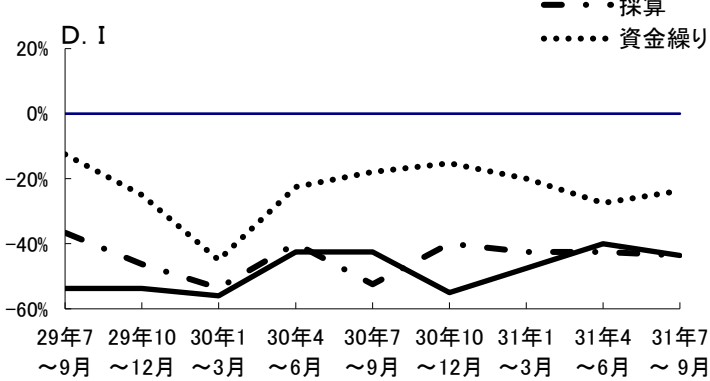
<前期比>

完成工事額 : 悪化 (45.0→15.0 ポイント)
 採算 : 悪化 (30.0→15.0 ポイント)
 資金繰り : 悪化 (40.0→25.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 材料価格の上昇 (26.7%)
 2位 : 民間需要の停滞 (20.0%)

③小売業



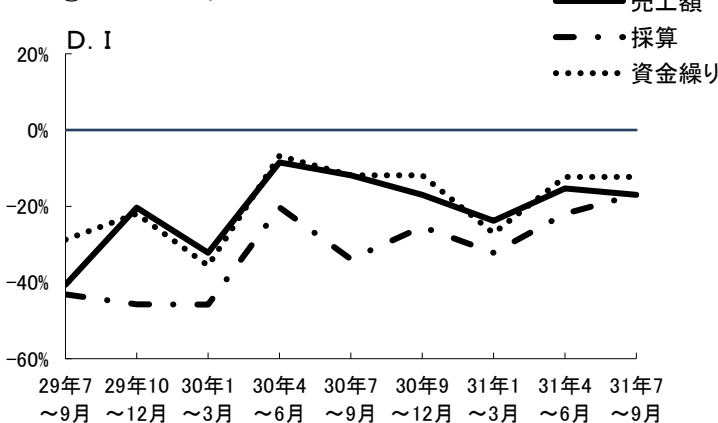
<前期比>

売上額 : やや悪化 (▲40.0→▲43.6 ポイント)
 採算 : やや悪化 (▲42.5→▲43.6 ポイント)
 資金繰り : やや好転 (▲27.5→▲23.7 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 購買力の他地域への流出 (20.5%)
 2位 : 需要の停滞 (15.4%)

④サービス業



<前期比>

売上額 : やや悪化 (▲15.3→▲17.0 ポイント)
 採算 : やや好転 (▲22.0→▲16.9 ポイント)
 資金繰り : 横ばい (▲12.3→▲12.3 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 材料等仕入単価の上昇 (28.6%)
 2位 : 従業員の確保難 (16.3%)